

麻疹が再び流行する？

馬場 直子

先日のNHKニュースで、東京都で今年10人目の麻疹患者が確認されたと報じられた。しかも、感染した場所は混在した、おそらく外国人も多い飲食店であろうとのことであった。麻疹ウイルスの感染力の強さからいうと1人の患者がみつかったということは、診断・隔離されるまでの間に複数の人に感染が広がったに違いないと思われる。救急外来で風邪と片づけられ、さらにそこからネズミ算式に広がっているかもしれない。以前にも、後に麻疹と診断された人と新幹線で同じ車両だった乗客の中から、数日後に少なくとも4人への感染が確認されたと報じられていた。

先週外来でみた9歳女兒は、風邪様症状の後、体幹、四肢、顔に小豆大までの浮腫性紅斑・丘疹が密に多発し、融合傾向が強く、正常皮膚が網目状に残る、まさに麻疹の発疹とそっくりな症状でドキッとした。MRワクチンの定期接種は2回実施されていた。しかしそれだけでは完全否定はできない。1つだけ合わないのは、皮疹が出た順番が違っていた。麻疹で典型的な顔、頸、耳後部に始まり、体幹、四肢に拡大・増加していくのとは異なり、体幹が先で後から顔や四肢だという。しかし皮疹の順番だけで否定できるのだろうか？ ちなみにコプリック斑はみられなかったが、すでに発疹が出てから3日経過していたので、出ていたとしても消える時期であろう。迷ったが、強く麻疹を疑う症状である以上、なんらかの中毒疹でしょうとやり過ごすわけにはいかない。咽頭粘膜の擦過スワブを取り、保健所へ送ってウイルス検査をしてもらい、偽陰性の可能性も考えて念のため麻疹特異的血清IgM抗体価を調べておいた。保護者には結果が出るまで自宅の個室で安静にして隔離していただくようお願いした。結果は麻疹とは出ずホッとしたが、非常に緊張した時間であった。

わが国はWHOの西太平洋地域から麻疹を排除するべきという決議を受けて、2006年から麻疹ワクチンを2回接種とした。しかし2007年に10歳代を中心に麻疹が流行したことから、厚生労働省は、2回のワクチン接種機会がなかった10歳代の免疫を強化するため、中学1年生、高校3年生を対象に、5年間(2008～2012年度)の補足的ワクチン接種を定期接種として導入した。これらにより、2009年以降、麻疹患者数は減少し、2015年3月には西太平洋地域麻疹排除認証委員会より日本は麻疹排除状態にあると認定された。それにもかかわらず2018年から2019年に20歳以上の成人での急増がみられたことは記憶に新しい。

コロナが第5類となりインバウンドの急増とともに、再び日本は麻疹流行国となるのだろうか？ 若い先生方で麻疹などの感染症の皮疹をみたことがない世代が増えているといわれているが、今後はウイルス感染症をみる目ももっと大切になってくるのかもしれない。